

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	名古屋市立大学		
② 大学等の設置者	公立大学法人名古屋市立大学	③ 設置形態	公立大学
④ 所在地	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	660	人
	(非常勤)	644	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		10	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	859		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	3,883
	1年次	882	人
	2年次	882	人
	3年次	883	人
	4年次	931	人
	5年次	138	人
	6年次	167	人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	高石鉄雄	(役職名)
			高等教育院長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	全学教育機構		
	(責任者名)	伊藤恭彦	(役職名)
			理事・副学長(教育)
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	教養教育運営委員会(内容によっては全学教育機構)		
	(責任者名)	高石鉄雄	(役職名)
			高等教育院長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	教務企画室	担当者名	森川
E-mail	jimu3@sec.nagoya-cu.ac.jp	電話番号	052-872-5801

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報・統計処理	4-1統計および数理基礎		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目)
	1-6 データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目) セキュリティから学ぶインターネット技術「情報処理応用」(3~5回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目) 医学と統計学「情報・統計処理」(9回目)
	1-3 さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目) 医学と統計学「情報・統計処理」(9回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目) 医学と統計学「情報・統計処理」(9回目)</p>
	1-5	<p>データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」「情報処理応用」(1回目) 医学と統計学「情報・統計処理」(9回目)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」(1回目) ネットワークリテラシー「情報・統計処理」(2回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目)</p>
	3-2	<p>データを守る上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報・統計処理」(1回目) ネットワークリテラシー「情報・統計処理」(2回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目)</p>
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>データを読む ワードプロソフトによる文書作成「情報・統計処理」(3回目・4回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報・統計処理」(5回目・6回目) プレゼンテーションスライドの作成「情報・統計処理」(7回目・8回目) EZRの使い方、記述統計学、推測統計学「情報・統計処理」(10～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)</p>
	2-2	<p>データを説明する ワードプロソフトによる文書作成「情報・統計処理」(3回目・4回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報・統計処理」(5回目・6回目) プレゼンテーションスライドの作成「情報・統計処理」(7回目・8回目) EZRの使い方、記述統計学、推測統計学「情報・統計処理」(10～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)</p>

	データを扱う ワープロソフトによる文書作成「情報・統計処理」(3回目・4回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報・統計処理」(5回目・6回目) 2-3 プレゼンテーションスライドの作成「情報・統計処理」(7回目・8回目) EZRの使い方、記述統計学、推測統計学「情報・統計処理」(10～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)
--	---

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会における数理・データサイエンス・AIの必要性を理解するとともに、学生生活や社会人になってからもそれら情報技術を使いこなせる基礎知識、またそれを取り扱う際のセキュリティ等倫理に関する基礎的知識を身に付ける。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/guide/liberal-arts/>

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報処理	4-2アルゴリズム基礎		
情報処理	4-3データ構造とプログラミング基礎		
情報検索基礎	4-5テキスト解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る ・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回) ・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)
	1-6 データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る ・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回) ・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活	1-2 どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る ・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回) ・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)

や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの

1-3

さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る
・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回)
・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回)
(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回) ・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>
	1-5	<p>データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション、コンピューターの基本構成「情報処理基礎」(第1回) ・ICT環境の理解と活用、ICT環境の利用方法「情報検索基礎」(第1回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーの実践「情報処理基礎」(第11回) ・情報リテラシーの理解「情報検索基礎」(第11回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>
	3-2	<p>データを守る上で知っておくべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーの実践「情報処理基礎」(第11回) ・情報リテラシーの理解「情報検索基礎」(第11回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>
	2-1	<p>データを読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像処理ソフトの理解「情報検索基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの理解「情報検索基礎」(第7～9回) ・文書作成の実践「情報処理基礎」(第12～15回) ・画像処理ソフトの活用「情報処理基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの操作「情報処理基礎」(第7～9回) ・統計学の基礎「情報処理」(第13回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」、「情報処理」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>

<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-2	<p>データを説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像処理ソフトの理解「情報検索基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの理解「情報検索基礎」(第7～9回) ・文書作成の実践「情報処理基礎」(第12～15回) ・画像処理ソフトの活用「情報処理基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの操作「情報処理基礎」(第7～9回) ・統計学の基礎「情報処理」(第13回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」、「情報処理」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>
	2-3	<p>データを扱う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像処理ソフトの理解「情報検索基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの理解「情報検索基礎」(第7～9回) ・文書作成の実践「情報処理基礎」(第12～15回) ・画像処理ソフトの活用「情報処理基礎」(第2～6回) ・表計算ソフトの操作「情報処理基礎」(第7～9回) ・統計学の基礎「情報処理」(第13回) <p>(取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」「情報検索基礎」、「情報処理」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。詳細はシラバス参照)</p>

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会における数理・データサイエンス・AIの必要性を理解するとともに、学生生活や社会人になってからもそれら情報技術を使いこなせる基礎知識、またそれを取り扱う際のセキュリティ等倫理に関する基礎的知識を身に付ける。

⑪ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/guide/liberal-arts/>

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)
	1-6	データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目) セキュリティから学ぶインターネット技術「情報処理応用」(3~5回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)
	1-3	さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)</p>
	1-5	<p>データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」(1回目) 情報倫理「情報処理基礎」(11回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目)</p>
	3-2	<p>データを守る上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」(1回目) 情報倫理「情報処理基礎」(11回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目)</p>
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>データを読む ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(2～4回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(5～7回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(8,13～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)</p>
	2-2	<p>データを説明する ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(2～4回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(5～7回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(8,13～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)</p>

	データを扱う ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(2～4回目) 2-3 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(5～7回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(8,13～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目)
--	--

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会における数理・データサイエンス・AIの必要性を理解するとともに、学生生活や社会人になってからもそれら情報技術を使いこなせる基礎知識、またそれを取り扱う際のセキュリティ等倫理に関する基礎的知識を身に付ける。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/guide/liberal-arts/>

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)
	1-6	データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目) セキュリティから学ぶインターネット技術「情報処理応用」(3~5回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)
	1-3	さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)</p>
	1-5	<p>データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」「情報処理応用」(1回目)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」(1回目) ネットワークリテラシー、情報倫理、情報セキュリティ「情報処理基礎」(2回目) ネットワーク上の脅威「情報処理基礎」(13回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。 詳細はシラバス参照)</p>
	3-2	<p>データを守る上で知っておくべきこと ガイダンス、本学における情報環境「情報処理基礎」(1回目) ネットワークリテラシー、情報倫理、情報セキュリティ「情報処理基礎」(2回目) ネットワーク上の脅威「情報処理基礎」(13回目) ガイダンス、本学における情報環境、ネットワークリテラシー「情報処理応用」(1回目) Webサイトのセキュリティと安全性「情報処理応用」(12回目) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。 詳細はシラバス参照)</p>
	2-1	<p>データを読む ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(3～5回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(6～8回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(9～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。 詳細はシラバス参照)</p>

(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-2	・データを説明する ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(3～5回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(6～8回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(9～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。 詳細はシラバス参照)
	2-3	データを扱う ワープロソフトによる文書作成「情報処理基礎」(3～5回目) 表計算ソフトによる計算と表の作成「情報処理基礎」(6～8回目) プレゼンテーションスライドの作成・実施「情報処理基礎」(9～15回目) Webページ作成「情報処理応用」(6～11回目) (取り扱う内容は同一だが、「情報処理基礎」のクラスによって、テーマ名、授業回が異なる。 詳細はシラバス参照)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会における数理・データサイエンス・AIの必要性を理解するとともに、学生生活や社会人になってからもそれら情報技術を使いこなせる基礎知識、またそれを取り扱う際のセキュリティ等倫理に関する基礎的知識を身に付ける。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/guide/liberal-arts/>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
医学部	97	582	97	97											97	17%
薬学部	115	535	120	116											120	22%
経済学部	230	920	236	230											236	26%
人文社会学部	194	800	205	203											205	26%
芸術工学部	100	400	102	84											102	26%
看護学部	80	320	81	80											81	25%
総合生命理学部	43	167	45	44											45	27%
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
合計	859	3724	886	854											886	24%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

名古屋市立大学全学教育機構規程

② 体制の目的

全学的な観点から履修体制を整えとともに、数理・データサイエンス・AI分野を含む教育の質を確保することを目的とする。全学の教養教育について、専門教育及び大学院教育と合わせて体系的に行うための機関である全学教育機構を通じて上記目的達成を目指す。

③ 具体的な構成員

伊藤恭彦	理事(教育)/人間文化研究科教授	(所属:人間文化研究科)
高石鉄雄	高等教育院長/理学研究科教授	(所属:理学研究科)
青木康博	医学研究科教授	(所属:医学研究科)
湯浅博昭	薬学研究科教授	(所属:薬学研究科)
鵜飼宏成	経済学研究科教授	(所属:経済学研究科)
久保田健市	人間文化研究科教授	(所属:人間文化研究科)
溝口正人	芸術工学研究科教授	(所属:芸術工学研究科)
香月富士日	看護学研究科教授	(所属:看護学研究科)
杉谷光司	理学研究科教授	(所属:理学研究科)
児玉英希	教育研究部長	(所属:教育研究部)
森川英俊	教務企画室長	(所属:教育研究部)
南部尚平	医療人育成課長、看護学部事務室事務長	(所属:教育研究部)
水野幹夫	薬学部・芸術工学部事務室事務長	(所属:教育研究部)
井上 誠	山の畑事務室事務長	(所属:教育研究部)

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	24%	令和4年度予定	47%	令和5年度予定	71%
令和6年度予定	94%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	3,724

具体的な計画

国の「AI戦略2019」において、全ての大学生にリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育をおこなうことが目標とされる中で、所要の科目を設置し、必修や選択必修による履修制度も活用して、履修率の向上・維持を図る。

令和5年度にデータサイエンス学部(仮称)を設置予定であり、それに伴い全学的な情報系教育の充実をさらに予定しているが、それに先行して全学判断を踏まえ、令和4年度から全学部共通のデータサイエンス科目(「データサイエンスへの誘い」)を教養教育において開講する。

・令和5年度には、教養教育カリキュラム改革の一環として、データサイエンス関連科目の新設準備を進めており、全学部共通科目となる予定である。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「情報・統計処理」は医学部の必修科目となっているほか、「情報処理基礎」は芸術工学部及び総合生命理学部の必修科目、また、医学部を除くその他学部の選択必修科目となっており、全学部の1年生全員が履修可能な時間割が割り当てられている。
追加で開講する教養教育科目(④欄における「データサイエンスへの誘い」)は、1年次の専門科目と時間割が重複しない時間帯で開講されているため、「情報処理基礎」又は「情報・統計処理」に加えて追加で履修を希望する学生が受講可能となっている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生ガイダンスで該当科目の履修案内をしている。また、学生用ポータルサイトを活用し、学生が情報を受け取りやすいような環境を整備するとともに、履修に当たって不明な点があれば、教養教育を担当する教務企画室や科目担当教員、各学生を担当する指導教員に質問するよう案内している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

教員一人当たりの学生数が少ない少人数教育を特長としており、学生一人一人に指導教員を配置し、履修のサポートをきめ細かく行っている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

教員がオフィスアワーを設定してシラバスに明記し、指導、質問を受けられるようにしている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの履修内容は、数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)の要件を満たしていると評価している。追加で全学統一的なデータサイエンスの基礎を学ぶ講義を開講することで、大学としてより体系的なデータサイエンス履修プログラムとすることができるとの全学判断をふまえ、令和4年度から全学部共通での選択科目としてリテラシーレベルのデータサイエンス科目(「データサイエンスへの誘い」)を教養教育で開講することとし、1年生だけでなく2年生以上も聴講できるようにしている。</p>
学修成果	<p>本プログラムの全受講者についての授業アンケート設問により、学生自身が「目標を明確に意識する」、「主体的に学修に取り組む」、「その成果を自ら適切に評価する」、「さらに必要な学びに踏み出す」という点に焦点をあて、受講生の自律的学修状況を教員にフィードバックすることで、学生の学修成果を把握し、今後の教育内容の改善に活用している。</p>

学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度	上記「学修成果」の項目記載の通り、本プログラムの全受講者に対して授業アンケートを実施し、受講生の自律的学修状況を把握している。
学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの全受講者に対して授業を受講することで自身の成長にどうつながったかという点について授業アンケートを実施している。学生個人は自身の結果について確認することができ、後輩等他の学生への履修の波及を期待する。

<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラムの一部科目は必修又は選択必修科目であり、ほぼ全ての学生が履修する。R4年度から追加で開講する全学部共通のデータサイエンス科目(「データサイエンスへの誘い」)については、1年次の専門科目と時間割が重複しない時間帯で開講する予定であり、履修率向上に向けて取り組む。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラムは数理・データサイエンス・AIに関する基礎を学ぶものであり、どのような進路を今後歩むにせよ必須となる内容と理解している。特に、今後ビックデータの活用を進める企業や自治体からは不可欠の内容との評価を受けると考えている。需要に応えるよう更なる発展に取り組んでまいりたい。</p>

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本学においてデータサイエンス学部(仮称)の設置を進めており、かかる専門学部においては、教育内容について産業界との交流が見込まれる。当該交流で得られた知見が今後本プログラムをさらに発展させていく際に活用されるものと期待している。

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること</p>	<p>本プログラムの授業科目の導入において、時事的なトピックを交えて、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義等について理解を深めるよう取り組んでいる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>実施する授業アンケートを参考に、より分かりやすい授業内容となるよう改善を行うこととしている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/guide/liberal-arts/>